

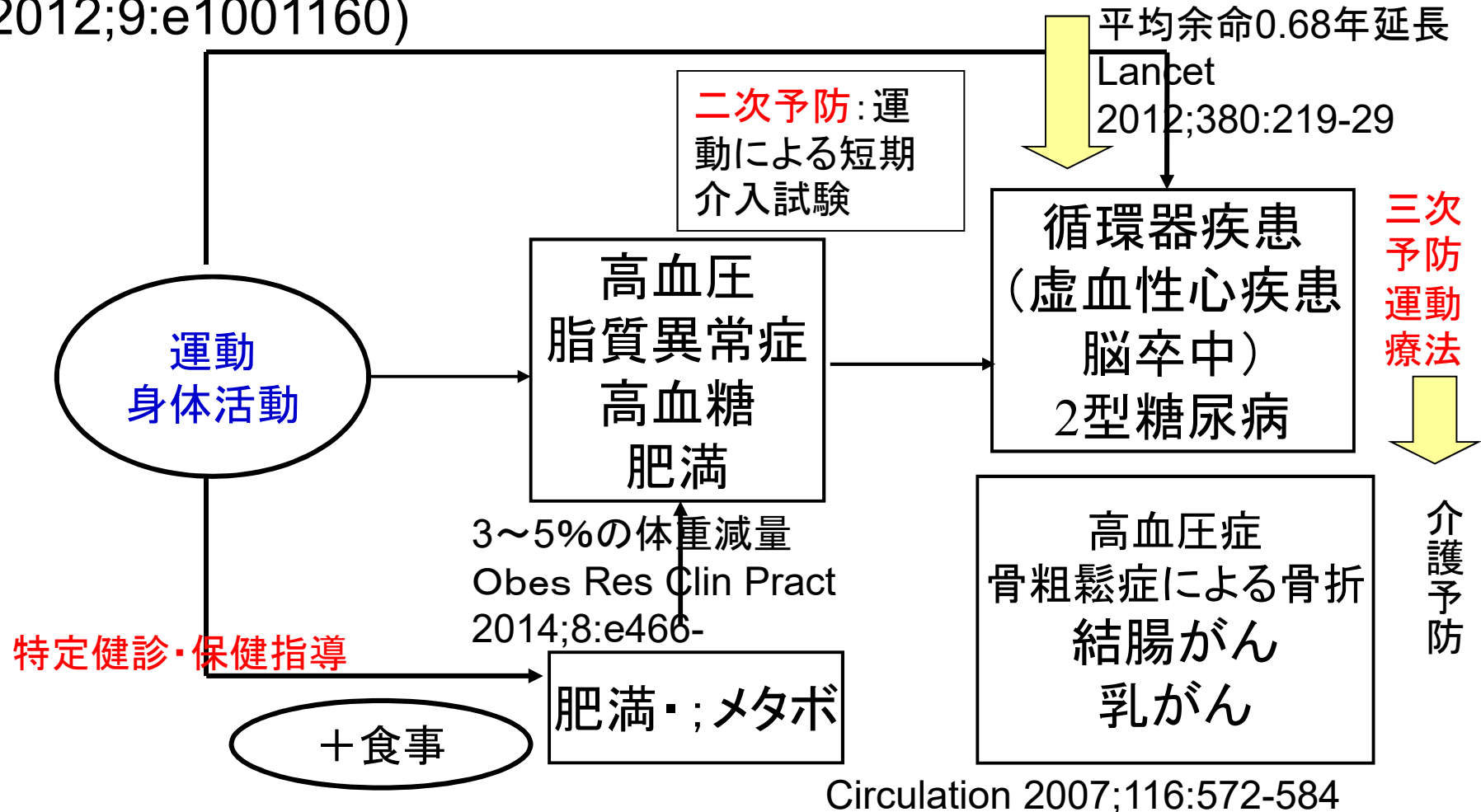
# 地域における健康スポーツ活動

日本医師会 健康スポーツ医学委員会  
あいち健康の森健康科学総合センター  
津下 一代

# 健康寿命延伸と健康スポーツ

一次予防 (コホート研究などの観察疫学研究の成果)

喫煙、高血圧について3番目の危険因子 (PLos Med 2012;9:e1001160)



Circulation 2007;116:572-584

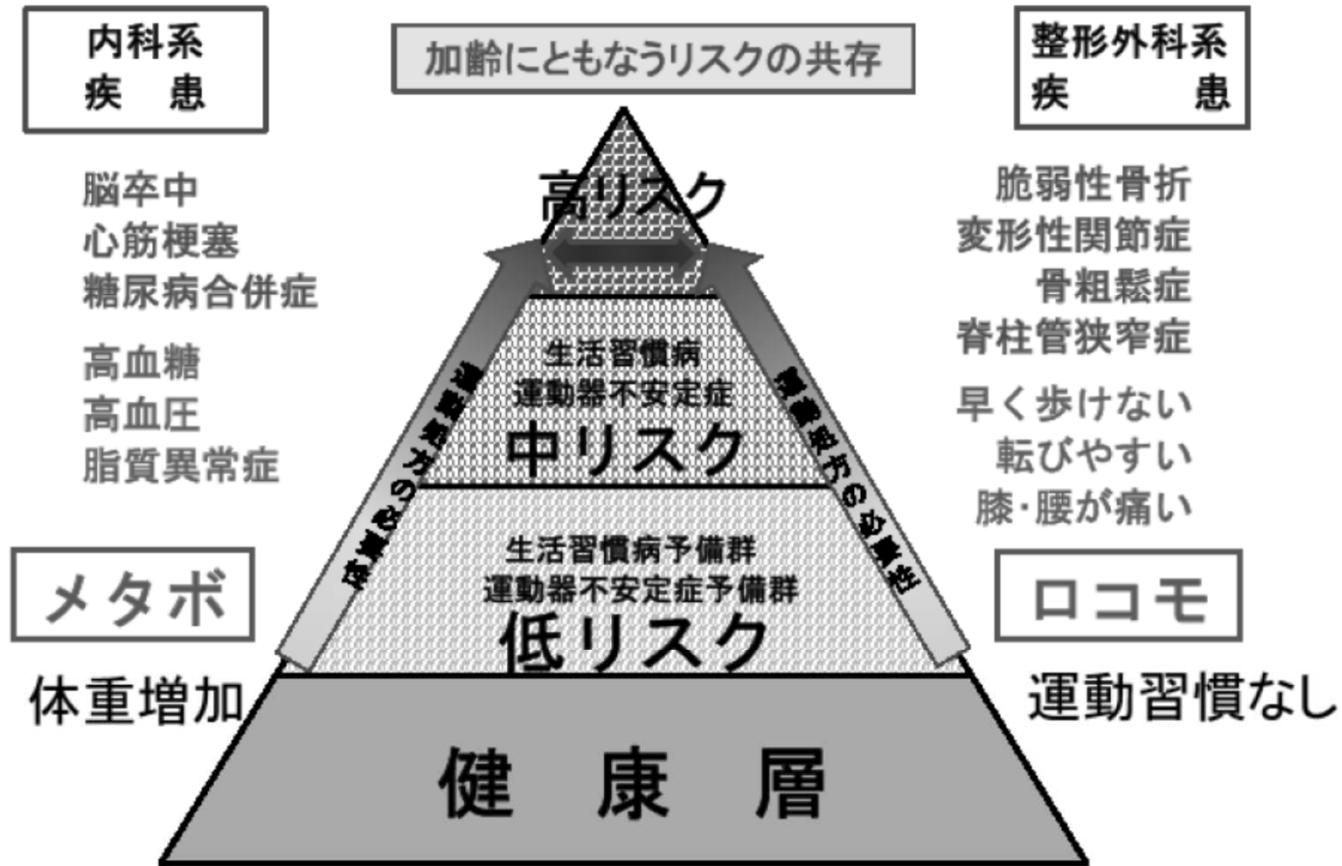


図3 加齢にともなうリスクの共存（イメージ図）

# 日本医師会認定健康スポーツ医制度

- 平成3年(1991年)から開始
- 前期・後期 25単位(1500分)

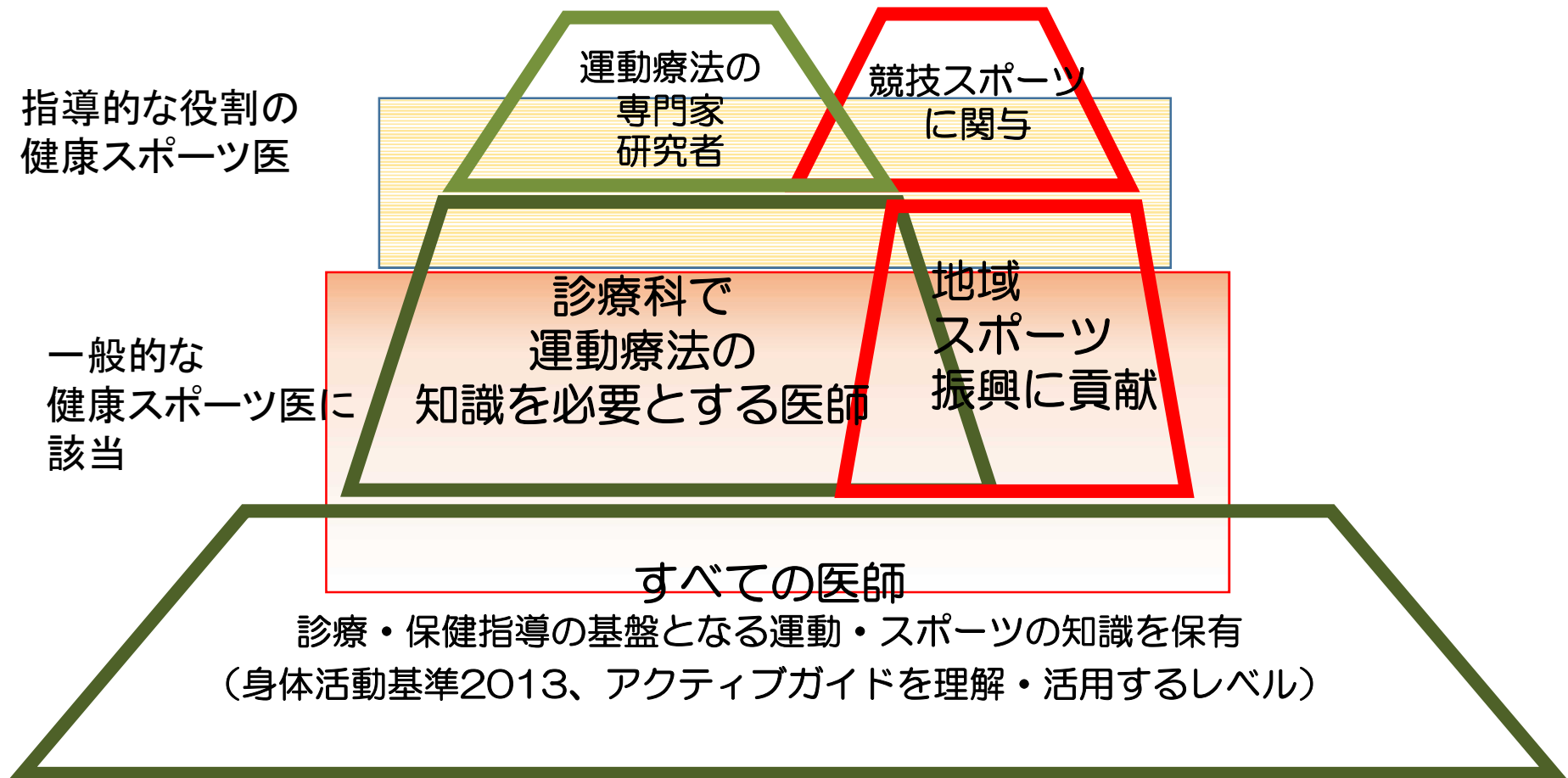
平成30年7月末現在認定者数は23,254名

- 有効期間5年間 更新要件(再研修会)5単位

主たる診療科(平成30年7月末):内科(55.8%)、整形外科(9.8%)、外科(5.9%)、小児科(0.1%)、産婦人科(2.4%)

	日本体育協会公認スポーツドクター	日本整形外科学会認定スポーツ医	日本医師会認定健康スポーツ医
人数	5,806名 (2017年10月1日現在)	4,808名 (2017年8月21日現在)	8,881名 (2017年7月25日現在)
資格取得対象者	医師免許取得後4年を経過し、日本体育協会または本会加盟団体から推薦された本会が認めたもの	日本整形外科学会専門医	全ての医師
資格取得までのカリキュラム単位	基礎科目 25単位(三制度共通) 応用科目 27単位	総論 25 単位(三制度共通) 各論 16 単位	25 科目(三制度共通)
講習等実施方法	講習は単位制となっており、科目内の受講順序は自由。応用科目は、前年度までに基礎科目を修了した者及び、基礎科目免除者が受講可能	全科目完全受講	講習は、前期13科目、後期12科目と分け、部分受講は認めていない。前期、後期の受講順序は自由。
認定有効期間	4年	5年	5年
受講有効期限	基礎科目からの受講:6年間 応用科目からの受講:3年間 (受講開始年度含む)	なし	なし
資格更新要件	<p>研修会受講(4時間以上/1研修あたり)</p> <p>有効期限4年間のうちに、最低1回は日本体育協会が認める研修会(下記)に参加しなければならない。</p> <p>①本会が開催するスポーツドクター研修会 ②各都道府県体育協会が開催し、本会の定める基準を満たす研修会 ③日本臨床スポーツ医学会学術集会 ④日本整形外科スポーツ医学会学術集会 ⑤日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS) ⑥チームドクタートレーナーミーティング(日本臨床スポーツ医学会主催) ⑦その他、スポーツドクター部会が特別に認めたもの</p>	<p>研修会受講(12単位)</p> <p>次のいずれかの方法により、5年間に12単位以上取得する</p> <p>①日整会が開催するスポーツ医資格継続のための研修会 1日 4単位 ②日整会教育研修会実施規約に基づく教育研修会で委員会が認めた単位。ただし、整形外科専門医資格継続のための単位との重複は認めない。1演題 1単位 ③スポーツに関連した学会への出席 1回 1単位</p> <p>認定学会(日本整形外科スポーツ医学会、日本臨床スポーツ医学会)</p>	<p>研修会受講(5単位)</p> <p>有効期間5年間のうちに</p> <p>①日本医師会が実施または承認した再研修会5単位以上を受講修了していること ②スポーツ医として学校、職場、地域などにおいてスポーツ医学の立場からの指導・教育・診療などの実践活動を行っていること</p>

# スポーツ(広義: 身体活動、健康増進、運動療法を含む)と医師とのかかわり



# 健康スポーツ医が果たせる役割

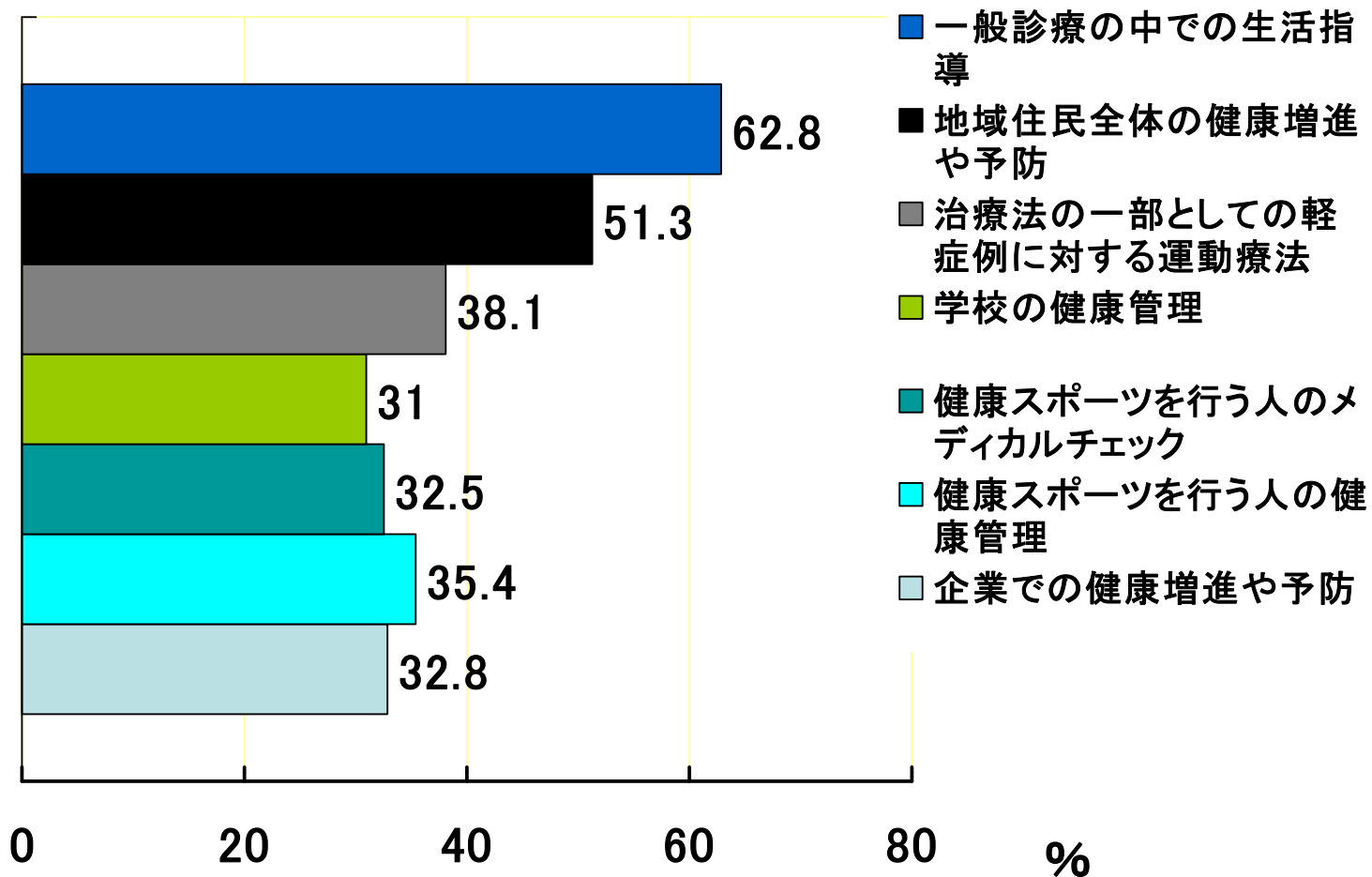
- (運動指導者との違い)運動をしたいと思わない人に会える⇒健診や診療などの機会に、個人の状況にあわせて運動についての働きかけを行う。
- 内科・整形外科等、複数の疾病を持つ人等のリスク保有者に対するアドバイス
- 自治体保健師や健康運動指導士等との連携して、運動実践・継続の場につなげていく
- 産業医、学校医として、健康スポーツ医学の知識を活用した助言

# 健康スポーツ医学の生かし方（複数回答）

対象：健康スポーツ医のうち3,231人に郵送調査

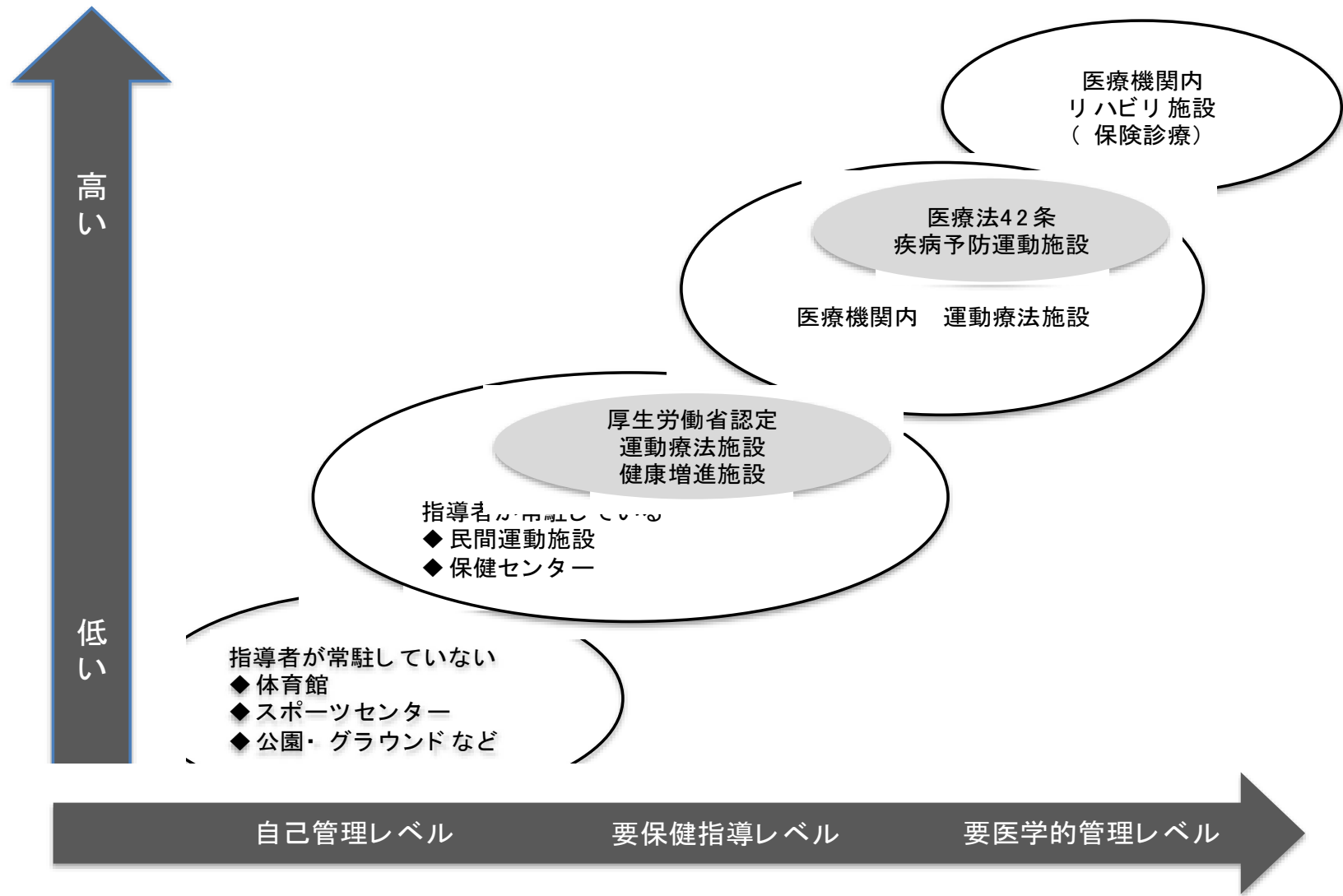
(2011年)

回答1,360人(回収率42.1%) 内科52.3%、整形外科16.3%





# 利用者の健康状態と危機管理レベルからみた運動環境（目標のイメージ）



# 運動療法・スポーツ推進の関係者連携のあるべき姿

